

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ファナック(株)三河サービスセンタ	階数	地下0階地上3階
建設地	愛知県刈谷市半城土町生出104番-11	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	40人
気候区分	6地域	年間使用時間	1,960時間/年
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2023年2月 予定	評価の実施日	
敷地面積	5,409 m ²	作成者	
建築面積	859 m ²	確認日	2022年11月14日
延床面積	2,226 m ²	確認者	小林 貴久



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

★ ★ ★ ★ ★ ☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

★ ★ ★ ★ ☆ ☆

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	61%
③上記+②以外の	61%
④上記+	61%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 2.1

LR のスコア = 3.9

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.7

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.5</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">20.2 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質														
Q1 室内環境														
1 音環境														
1.1 室内騒音レベル														
1.2 遮音														
1 開口部遮音性能														
2 界壁遮音性能														
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														
1.3 吸音														
2 温熱環境														
2.1 室温制御														
1 室温														
2 外皮性能														
3 ゾーン別制御性														
2.2 湿度制御														
2.3 空調方式														
3 光・視環境														
3.1 昼光利用														
1 昼光率														
2 方位別開口														
3 昼光利用設備														
3.2 グレア対策														
1 昼光制御														
3.3 照度														
3.4 照明制御														
4 空気質環境														
4.1 発生源対策														
1 化学汚染物質														
4.2 換気														
1 換気量														
2 自然換気性能														
3 取り入れ外気への配慮														
4.3 運用管理														
1 CO ₂ の監視														
2 喫煙の制御														
Q2 サービス性能														
1 機能性														
1.1 機能性・使いやすさ														
1 広さ・収納性														
2 高度情報通信設備対応														
3 バリアフリー計画														
1.2 心理性・快適性														
1 広さ感・景観(天井高)														
2 リフレッシュスペース														
3 内装計画														
1.3 維持管理														
1 維持管理に配慮した設計														
2 維持管理用機能の確保														
2 耐用性・信頼性														
2.1 耐震・免震・制震・制振														
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														
2 免震・制震・制振性能														
2.2 部品・部材の耐用年数														
1 躯体材料の耐用年数														
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														
6 主要設備機器の更新必要間隔														
2.4 信頼性														
1 空調・換気設備														
2 給排水・衛生設備														
3 電気設備														
4 機械・配管支持方法														
5 通信・情報設備														

3 対応性・更新性			0.2	3.4	0.29	-	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			0.3	3.4	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり		-	3.0	0.60		3.0	-	
2	空間の形状・自由さ		3.0	4.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性			0.3	3.8	0.38		-	-	
1	空調配管の更新性	②		3.0	0.17		-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	4.0	0.17		-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	3.0	0.11		-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	3.0	0.11		-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	5.0	0.22		-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	4.0	0.22		-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.35		-	-	2.1
1	生物環境の保全と創出	独自③		2.0	0.30		-	-	2.0
2	まちなみ・景観への配慮	独自④		2.0	0.40		-	-	2.0
3 地域性・アメニティへの配慮			0.3	2.5	0.30		-	-	2.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④		2.0	0.50		-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50		-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-		-	-	3.9
LR1 エネルギー				-	0.40		-	-	4.4
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI _m =0.65	3.0	5.0	0.25		-	5.0
2	自然エネルギー利用		突出し窓を計画し、日中の窓開放による自然換気の促進	3.0	4.0	0.15		-	4.0
3	設備システムの高効率化		BEI=0.38	3.0	5.0	0.41		-	5.0
4 効率的運用			0.2	3.0	0.20		-	-	3.0
集合住宅以外の評価			1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1	モニタリング		3.0	3.0	0.50		-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	3.0	0.50		-	-	
集合住宅の評価			-	-	-		-	-	
4.1	モニタリング		-	3.0	-		-	-	
4.2	運用管理体制		-	3.0	-		-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30		-	-	3.6
1 水資源保護			0.1	3.4	0.15		-	-	3.4
1.1	節水		3.0	4.0	0.40		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			0.6	3.0	0.60		-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.67		-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	3.0	0.33		-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			0.6	3.8	0.63		-	-	3.8
2.1	材料使用量の削減			2.0	0.07		-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.25		-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			3.0	0.21		-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	②		3.0	0.21		-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材	独自		3.0	-		-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	独自		3.0	0.25		-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			0.2	3.3	0.22		-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	4.0	0.32		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			0.6	3.0	0.68		-	-	
1	消火剤			-	-		-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50		-	-	
3	冷媒		3.0	3.0	0.50		-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮		①		4.5	0.33		-	-	4.5
2 地域環境への配慮			0.3	3.6	0.33		-	-	3.6
2.1	大気汚染防止			5.0	0.25		-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善			3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			0.2	3.5	0.25		-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		3.0	0.25		-	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25		-	-	
3	交通負荷抑制	独自		5.0	0.25		-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25		-	-	
3 周辺環境への配慮			0.3	3.0	0.33		-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			0.4	3.0	0.40		-	-	
1	騒音	独自		3.0	1.00		-	-	
2	振動	独自		-	-		-	-	
3	悪臭			-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制			0.4	3.0	0.40		-	-	
1	風害の抑制			3.0	0.70		-	-	
2	砂塵の抑制			1.0	-		-	-	
3	日照障害の抑制			3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制			0.2	3.0	0.20		-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70		-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30		-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				4.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.5	0.10	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.11	外構緑化:20.2%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用		(評価ポイント)		1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 ファナック(株)三河サービスセンタ

計画上の配慮事項	
総合	自生種の樹木を敷地外周に配置し緑豊かな室外環境計画とした。 建物においては一人当たりの換気量を30m ³ 見込むと共に、室内空間を大きく確保することで室内環境に配慮した。
Q1 室内環境	主要居室においては照度・換気・採光を基準値以上に計画し快適な執務スペースとした。
Q2 サービス性能	一人当たりの執務空間を大きく確保し、広さ・収容性・快適性に配慮した。
Q3 室外環境(敷地内)	植栽の工夫(樹種の指定・配置計画)
LR1 エネルギー	外壁ALCパネルの裏側に断熱材を吹付け、空調負荷低減に配慮した。
LR2 資源・マテリアル	エコマークなど環境に配慮した仕上げ材を採用した。
LR3 敷地外環境	製造・執務エリアにおいて燃焼機器はなしとし、地球環境へ配慮した。
その他	